

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874300841		
法人名	アサヒケア株式会社		
事業所名	グループホームみやびの里1階		
所在地	茨城県古河市駒羽根1420-1		
自己評価作成日	2022年9月20日	評価結果市町村受理日	2023年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0874300841-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0874300841-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔で明るい環境と家庭的な雰囲気作り、利用者様一人一人が自分に合った暮らしができるようなケアの提供に努めています。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、家庭的な雰囲気を大切にし、利用者個人の趣味や希望に沿って興味とやりがいを引き出すことで、生き生きと過ごせるよう努めている。自治会に加入し、イベントに参加するなど地域住民との交流を図ってきたが、現在はコロナ禍の為、イベントが中止となっている。ホーム内で利用できる独自の通貨があり、作業によって通貨を獲得出来たり、売店で買い物が出来たりと、利用者の暮らしの中でモチベーションアップに一役買っている。医療機関との連携が取れており、看取りの経験もある。家族からの信頼は厚い * 新型コロナウイルス感染予防の観点から訪問時間は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から職員と共に作成した理念があり毎朝唱和している。	1階と2階のユニットに理念を掲示し、職員と利用者が毎朝唱和して確認、実践している。職員は利用者が笑顔で生活できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し小学生・中学生のボランティアや社会見学、保育園から行事の招待等があったが今は出来ていない。コロナ禍に小学校から手作りマスクを頂いた。	小学生がマスクを作り届けてくれた。自治会に加入しており、交流の難しいコロナ禍の現在も地域情報を得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域清掃に参加。随時見学可能。夏祭りの招待等ありましたが地域参加はできていない。認知症相談窓口は行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1階開催していたが手紙にてやり取りをしている。直接会う事はできていない。	コロナ禍の為、市介護福祉課からの要請で書面報告のみとなっている。運営推進委員に議事録を送り、職員にはミーティングにて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1階開催していたが手紙にてやり取りをしている。直接会う事はできていない。	市の担当者には事業所の現況を書面で報告している現況である。小中学生への更なる協力関係を築けるよう『こども110番』の加入を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修やビデオをみて研修している。その都度職員と話し合い拘束0を目標に行っている。	身体拘束委員会の作成は検討中だが、毎月、ミーティング時に拘束項目について話し合い、記録に残している。拘束となる場合の書類は整備している。現在は拘束はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をおこなっている。虐待防止は当然の様に努めている。意識は高い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に必ず自宅・施設・病院に出向き本院・家族ケアマネ等に会いに行く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に築かれた事や要望をきき	コロナ禍前は、事業所のイベントに家族を招待し、その機会に意見や希望を求めてきた。要望はあまりみられず、利用者の様子を聞く家族が多いとのことだった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期ミーティングにて各部署のリーダーとのあつまりがあり事前に職員達に要望等を聞きリーダー会議・ミーティング等で話し合い反映されていく様に努めている。	職員は、意見や要望があればユニットリーダーにその都度伝えている。ユニットリーダーはリーダー会議で議題に挙げ、検討し、各職員にフィードバック応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善委員会・キャリアアップ委員会があり努めている。リーダーとの個人面談がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に1回自分の目標を書いて頂きどのように取り組んでいくのか面接をとうして指導したり提案をしたりその時に受けた鶴研修や受けて欲しい研修の話をする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の茶目施設を尋ねる事は難しく交流はできていない。在宅地域ネットワーク勉強会もお休み状態です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅や入居先・入院先に伺い実施調査を行い本人と家族との話し合いをもっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人が生活されていた所に伺い本人と家族と話し合いを持っている。電話・面会時に傾聴を受け止め改善できる事は改善し家族とともに一緒に支援していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施調査に伺い相談者・ケアマネ・リーダーの話し合いの中からGHが入所に適しているかどうか十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活・人生を知り個別支援を行い職員と共有している。1ユニットが1つの家族と思い全員で居場所作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少なくとも1ヶ月に1度は家族が来る状況を作り施設での生活状況を話したり、外出されたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの流行に伴い外出や頻繁な面会は困難になっているが、関係性が途切れないように努めている。	個人の携帯電話で友人と電話で話す利用者がいる。コロナ禍である為、家族との面会は時間を決めて個別に相談室で行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いたすけあっている。職員に言わずらい事を察して変わりに入ったり利用者同士なら言い易い等支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族が望めば随時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話しや生活歴、嗜好などから希望していることの把握に努め、職員間でどのように実践するか検討している。	レクリエーション活動の中で、利用者の興味がある作業を見出だす。様々な作業は事業所内の独自通貨に替えられ、使うこともでき、やりがいに繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前にご家族様や関係施設等から情報を頂く。ご本人様にも日常会話の中から生活歴やこれまでの暮らしぶり等を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックは必須。夜勤者より申し送り事項を把握し各入居者にあった一日になるよう支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの状況を職員間でこまめに話し合い、課題やケアの方向性を検討している。	モニタリングは職員が毎日実施している。介護計画に合わせた支援内容をその都度記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は常に職員全員が見られる様にしてあり共有している。日中と夜間と個別ケースを記録に残し業務日報、申し送りで報告連絡し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの利用。ショートからグループに入所、デイサービスを利用してた人のグループ入所がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため施設を尋ねる事は難しく交流はできていない。在宅地域ネットワーク勉強会もお休み状態です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	雇りつけ医を変えず他病院に連れて行く家族もいる。逆に専門の病院にかかる様検査指示を言われる事もある。	家族付き添い受診の場合は受診内容の報告をもらい、業務日誌やケース記録、申し送りノートに記録している。訪問看護や同施設内の看護師と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護に連絡可能。ショートに看護師がいるので来てもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師と家族が相談して望む病院に繋げてくれる。ケアマネがソーシャルワーカーさんと連絡を取る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が分かる状態であれば本人と家族・主治医・看護師・介護士ケアマネで担当者会議を開き、方向を皆で決める。	看取りについて、ターミナルプランに沿った支援を実施している。家族と面会し安心して旅立たれた利用者があり家族に感謝された。家族が医師に直接電話連絡することも出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの為外部との研修会や講習会はいけてない。社内研修のDVDがみれる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為地域との連携は手紙や電話だけになっている。	コロナ禍前は地域と一緒に訓練を行っていた。事業所へは地域住民の受け入れも可能で備蓄品も多く準備している。避難用のヘルメットを利用者の各居室に用意している。水害時は垂直避難をする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人職員は入社時オリエンテーションのなかでプライバシーの保護等の知識を含む勉強をしている。	失禁や着替えなどは羞恥心に配慮し、他の利用にわからないよう対応している。トイレ誘導や会話の中の言葉遣いなど、職員同士で注意し合う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・想いを普段の会話の中から表出し易い様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別支援・自立支援の重要性を職員全員が把握しその入居者に添った支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師がきてくれる。カットはもちろんパーマや毛染めもしてくれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少なくとも月1回食事作り、おやつ作りはある。行事献立もある。食事形態も個々に合わせ食べやすくしている。	現在、感染対策として職員は別に食事を摂っている。月1回はリクエストメニューを提供し、生ものや天ぷらのリクエストが多い。ホットケーキ、どら焼き、かき氷などのおやつ作りを楽しんでいる。食後の口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の記入。(水分量の指定や食べられない食品等も把握)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつで入所されりハパンに変わった人もいます。個々を把握しトイレ誘導を行っている。	定期的な声掛けや排せつパターンに応じた誘導などで、おむつから布パンツに改善された利用者が多い。夜間のポータブルトイレ使用はセンサーを使用して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って行っている。季節に合わせて柚子湯・しょうぶ湯も行う。入浴剤も色々とりそろえてある。	基本的には週に2～3回の入浴だが、状況に応じて対応可能。隣接のショートステイ施設内でリフトチェアを使って入浴する場合もある。皮膚感染予防対策を図っている。巻き爪は訪看が処置。着替えの準備は職員が利用者確認しながら揃えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望(体調に応じて就寝時間が個々になっている。)・想いを普段の会話の中から表出し易い様心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は連絡帳・ラインで随時行っている。個々のショホウセンファイルがあり確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった事を見つけ居場所作りをしている。お花の水やり、散歩、制作・個々に合った事をしてもらっている。月1回は好きな料理作りやおやつ作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1ヶ月に1度の外出支援。四季折々の行事等あったが今はコロナ禍の為全くできていない。	近所の散歩、花の水やり、ベランダでの日光浴、敷地内でのゴルフ練習など、コロナ禍でも屋外で五感の刺激を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理は事務所でやっている。必要な時は事務所にお小遣いとして個々に預かっているのでもそこから出して使用する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常時電話はかけられるし、受けられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養空間は少ないが季節が分かる様に瀬一作等行い飾ったり家庭の延長の様に心地良い居場所に心掛けその都度、検討している。	クリスマス飾りや習字、紅葉の壁飾りなど季節を感じる利用者の作品が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場所は居間(食道兼用)のみソファや暖かい時は庭にすぐでれる。日向ぼっこしたりゴルフをしたりできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使われていた物を持って来て頂いている。(寝具・食器関連・タンス・ベッド等)個々の使い慣れた物・家で使用していたものを持って来て貰っている。	テレビ、たんす、仏壇、扇風機やファンヒーターなどが持ち込まれており、安全面と同様に配慮して設置している。各居室の掃除は、モップ掛けをする利用者もいるが主に職員が実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	PTトイレの使用できる事を継続できる支援をしている。個々の持っている能力の向上に努めている。日常の生活が快活になる支援を行う。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームみやびの里

## 目標達成計画

作成年月日 : 2023年1月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	678	コロナの影響により(GHクラスターがおきました。)隔離の状態や外部接触が殆どなく利用者さんの認知が進むのが早く支援方法の見直しや今までとは違う状況の支援を考える。認知症の人の隔離や状況理解が出来ない利用者さんへの対応拘束や虐待の見直し等考えてみる。	身体拘束・権利擁護・虐待防止を踏まえ個々の見直しを強化。話し合いの場を増やす。利用者さん個々の状況把握を共有し毎日のケース記録を上記の3点も踏まえ詳細に記録する。	毎日のケース記録を詳細に記録し個々の状況の理解と一人にさせない寄り添いを行う。認知が進まない様に現状の把握を行う。	12ヶ月
2		認知症の利用者さんの隔離は最悪(コロナ陽性)			ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。